

## BWV196 解説：

### 1708 年 6 月、バッハは新曲を脇に抱えドルンハイムに向かったのか？

これはいい話だ。ある晴れた日にバッハは妻のマリア・バーバラとドルンハイムの小さな愛らしい教会に向かっていた。脇には最新作の「主は私たちのことを思われ」を抱えている。その出来たての一曲を演奏しようとしている親しみある地域の教会は 6 ヶ月前に二人が結婚した所だった。結婚式は家族付き合いのあるヨハン・ロレンツ・シュタウバーに厳かに取り仕切って貰い、そして今度はシュタウバーがこの日結婚する番なのだ。結婚のプレゼントにバッハは新しいカンタータを作曲し、そのため彼は慎重に歌詞を選び、もしかするとシュタウバー自身もそれに参加したかも知れない。詩篇 115 番の 4 節から成り、ここでは「祝福」の言葉が重要な役割を果たす。それはバッハに音楽的可能性も与えてくれるものでもあった。歌詞も極めて適切で、「アーロンの家」はそれが聖職者に関わるという事実に即しており、伴侶の二人だけでなく、子供たちまでも祝福されていた。シュタウバーにとってこれは初めての婚姻ではなく、先妻は半年前に亡くなっていたのだ。

歌詞同様、カンタータも簡潔且つ的を射たもので、レチタティーヴォはなく、まるで 17 世紀のシュッツ的スタイルの作品となっていた。しかし中心のソプラノ・アリアでは、バッハはイタリア歌劇からの「モダン」技法に舵を切って、曲頭に戻って終わるダ・カーポ・アリア、そしてパワフルな終楽章は 4 声が互いに嬉々として「アーメン」と跳ね回って終わる曲だ。

このカンタータがシュタウバーの結婚式のために書かれたとする着想は 100 年以上前の音楽学者フィリップ・スピッタが最初に提示したもので、あまりにも素敵な話だから何の疑念もなく受け入れられてきた。しかし意見は様々で、歌詞は結婚式にも確かにうまく当てはまるが、より一般的な感謝祭にはむしろもっとピッタリとも言える。作曲時期はバッハがライプツィヒのカントールになる前ではあるが、それ以上正確な日付の追跡は当時の譜面が残っていないため不可能だ。従ってこの初演がドルンハイムで行われたかどうかは不明だ。それでもこれは素敵なストーリーであり続けることになるだろう。

©Netherlands Bach Society

<http://allofbach.com/en/bwv/bwv-196/>

## BWV23解説：

### バッハがその才能をライプツィヒの評議会に納得させるため作曲した音楽

前置きも何もなく物語に飛び込むことになる。舞台はジェリコへの道、イエスに出会った盲目の男が癒やされるという話だ。男がイエスに助けを求め、イエスは彼の病を治した。盲目の男はイエスの真の姿を目にするのだが、視力のある周りの人たちはそれが見えない。ジェリコへの道がバスの声部に聞こえ、その上にはオーボエのデュエットとソプラノ、アルトのデュエットがいて、2声の二重織り構造である。オーボエと歌手は相互に模倣し合い、お互いが同じであり、且つ同じではない。それは神であり且つ死すべき者であるイエスの二重性（真の神でダビデの子）とも関連する。

このカンタータは最初3楽章のみで構成され、本来のその終曲は積極的に「すべての眼が待っています、主よ」(Aller Augen warten, Herr)と、盲目の男の楽観と忠誠が描かれていた。後に付け加えられた最終楽章は不朽のコラール「Christe, du Lamm Gottes」で、バッハの時代には誰もが親しんでいた受難の讃美歌に基づくもの。と言うことは、Quinquagesimaは四旬節前の最後の日曜日で、四旬節のあとには受難の日が続く訳だから、バッハは何週間も先の関連付けを仕込んでいたのだ。

さて、バッハが後に「キリスト、汝、神の子羊よ」だけを加えたという事実は、それを仮留めのようにただ添えたという訳ではない。件の讃美歌の旋律がテノール・レチタティーヴォのオーボエで聞こえている。但しテノールが、寓話の盲目の男のように、その苦悩に注目を求める時には必ずオーボエもイエス自身の苦悩に関わるようになっている。最後に同じ讃美歌の完全なコラール編曲を加えることで、バッハはその比較を追求していたのだ。

このカンタータはBWV22「イエス十二使徒を召し寄せて」と組み合わせて見ておくべきだ。バッハはこの2曲を1723年2月5日にライプツィヒの礼拝で演奏した。この2作品は市の評議会からの依頼を受けて、オーディションの作品として作曲されたもので、バッハがライプツィヒでの就職に応募する手順の一環として演奏された。音楽は評議会を満足させるもので、その結果バッハはカントールに任命された。

©Netherlands Bach Society

<http://allofbach.com/en/bwv/bwv-23/>